

地域のみな様と、私たちがむすぶ広報誌



# 公立南丹病院

Nantan General Hospital

Vol.29

2016.4  
Spring  
春号



平成28年3月11日 卒業式・謝恩会

## 一人一人に寄り添う事のできる看護師を志して

看護学校に入学し同じ夢を持つ仲間たちと出会うことが出来ました。しかし、学校生活は楽しいことばかりではありません、学習が進むにつれ看護の難しさを知り、何度も挫折しそうになりました。その都度応援してくれた友達や先生方、指導者の皆さん、患者様の言葉が大きな支えとなりました。そして、たくさんの経験を積む中で、看護は「患者と看護師」という関係の前に、一人の人間として向かい合うことの大切さを学びました。これからは、看護師として働くこととなります。患者様と人として向き合い、一人一人に寄り添うことのできる看護師を志していきたいと思えます。

3年生 あだち かすみ  
足立 佳澄

臨床研修指定病院 地域がん診療病院 救急告示病院  
日本医療機能評価機構認定病院 へき地医療拠点病院  
第二種感染症指定医療機関 地域周産期母子医療センター  
京都府地域リハビリテーション支援センター エイズ拠点病院  
京都府難病医療協力病院 地域災害医療センター  
DMAT指定医療機関 認知症疾患医療センター

## 公立南丹病院

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野 25 番地  
TEL 0771-42-2510 (代) FAX 0771-42-2096  
<http://www.nantanhosp.or.jp>





病院の理念

公立南丹病院は、この地域の住民の生命健康を守る最終拠点病院である。このことを病院職員は深く認識し、患者さんの権利を守り、患者さん中心の医療を行い、患者さんから愛され信頼される病院をめざす。

患者さんの権利と責務

私たちは患者さんの権利を尊重し、十分な説明と合意に基づいた医療を行います。

- 1. 説明を受ける権利
2. 治療を選択する権利
3. 情報を知る権利
4. 個人匿名の保護を受ける権利
5. 自分の健康情報を正確に提供する責務
6. 説明を理解するまで問う責務
7. 病院での規則に従う責務

2016.4
Vol.29
春号

CONTENTS

- 「新しい春を迎えて」..... ①
■就任のご挨拶..... ②
■赴任医師のご挨拶..... ③
■部門紹介 回復期リハビリテーション病棟..... ⑤
■公立南丹看護専門学校..... ⑥
■39年間で振り返って..... ⑦
■看護研究会..... ⑦
■平成27年度 第3回緩和ケア講演会... ⑦
■第1回 iMEPカップ(ナースingオリエンテーリング)に参加して..... ⑧
■地域における「PUSHプロジェクト」の普及を目指して..... ⑧
■近隣の連携医療機関の先生方..... ⑨
井上耳鼻咽喉科医院
吉田小児科内科医院
■南丹病院設立物語..... ⑩
■第4回
リハビリテーション事例検討会を終えて
■平成28年度
オープンキャンパス・学校見学会のお知らせ
■看護師・助産師募集
■編集後記

「新しい春を迎えて」

院長 たつみ てつや 辰巳 哲也



寒い冬もようやく終わり、さわやかな梅の香が漂う時期が過ぎて、今年もまた桜のつぼみが膨らみ春の訪れを感じさせる季節となってまいりました。皆様におかれましては、健やかに過ごしの事とお慶び申し上げます。

春は秋と並び一年の中で最も気候の穏やかな季節でもあり、春の行事といえば、雛祭り、お花見、入学式・入社式、端午の節句など、美しい花々の開花とともに新緑に輝く木々の緑が心を和ませてくれます。「春(はる)」という言葉の語源は「草木の芽が張る(はる)」「田畑を墾る(はる)」「気候が晴る(はる)」などの諸説があるようで、天候に恵まれ、希望に溢れる季節を象徴しています。

また春は新しい出会いとともに別れの季節でもあります。公立南丹病院で長年にわたり貢献していただき、退職あるいは転勤になられる職員の皆様には心から御礼とこれからの人生の御多幸、御活躍をお祈り致します。また4月から勤務頂ける職員の皆様には心からの歓迎と今後の御活躍を期待しています。

2016年度、医療を取り巻く環境はさらに変革を求められることが加速されるでしょう。3月初めには診療報酬の改定も発表され、3月16日には2度目となる南丹地域医療構想調整会議が行われました。構想区域については京都市域への患者流出もありますが、公立南丹病院を中核病院とした医療圏の維持が相当であり、病院同士がうまく連携して機能配分や機能充実を考えていく方針が改めて確認されました。

4月から新年度が始まります。公立南丹病院はこの地域にお住いの皆様の生命健康を守る拠点病院として、急性期疾患への診療と高度な専門的医療を推進してまいります。しかし御高齢の方々が増加する地域事情も考え、回復期リハビリ病棟とともに、できるだけ早期に地域包括ケア病棟を開設できるように準備を進めます。さらに4月に開設した訪問看護ステーションは、通院でお困りの方々への在宅医療を支援できるものと信じています。このように病床機能の再編は病院間のみならず、当院の中においても進んでいます。

急性期病院としての立ち位置をしっかりと認識しながら、京都から近距離である医療圏としての特色も含めて、地域の医療ニーズと医療提供体制を見据えていくことが肝要かと考えています。今後も当院は他病院や診療所と密接な連携を取りながら、地域の基幹病院として急性期病床から亜急性期・回復期病床を兼ね備え、さらに在宅医療も支援できる多機能病院(Multifunctional Hospital:MFH)となることを目指して努力を続けてまいります。

4月からは多くの新しい仲間達を迎えます。スタッフが増員される診療科を紹介しますと、数年間休診していた呼吸器内科が再開され、外科治療・放射線治療とともに、呼吸器疾患が医療圏で完結できる体制となりました。また新たに肝臓内科を新設しましたので、肝臓病でお困りの方はどうか御相談下さい。循環器内科、泌尿器科、小児外科もスタッフが増えます。非常勤ではありますが精神科も診察日が増え、糖尿病の専門外来も新たに開設しました。さらに副院長として外科の山岡延樹先生、内科の計良夏哉先生に就任していただき、皆様に信頼される病院づくりに向けて一緒に頑張ってもらいます。

南丹医療圏での最終拠点病院としての責任と自覚を持ち、益々地域に貢献できる病院になりますように職員一丸となって頑張りますので、今後とも皆様の御協力と御支援を賜りますようどうか宜しくお願い致します。今年も桜の季節が訪れ、皆さまの春がさわやかで心温かなものでありますようにお祈りしております。



「花の浮橋」哲学の道にて

## 就任のご挨拶

副院長 やま おか のぶ き 山岡 延樹



平成28年4月1日付けで副院長の重責を拝命いたしました。私は、昨年4月に公立南丹病院へ外科部長・手術部長・統括部長として赴任させていただき、この1年間で病院のおかれている状況をようやく把握できたところです。当院は南丹医療圏における地域のがん診療の実質的な拠点「地域がん診療病院」として、厚生労働省より指定を受けております。がんは30年以上にわたり死因の第1位、現在も増加の一途、日本人の2人に1人が何らかのがんにかかる時代です。がん診療分野の当院での責任担当者として、その重要性、責務の重さに改めて身の引き締まる思いでおります。

また、病院運営を取り巻く内外の状況は好むと好まざるに関わらず、その時々で社会的情勢に多大な影響を受けます。病院憲章の中でも、公営企業体として無駄を省き効率を高め健全な経営を保つことが大切な課題として謳われております。

この地にこの病院が存続することはどのような社会状況になろうと必要です。これまでの習慣や形式にとらわれない効率的な病院運営が不可欠であり、患者さんのご病状に合わせた入院病床の再編成などもその一環となる大切な要素であると考えます。

私の個人的な思いと承知しておりますが、地域の方々から期待していただいていることを誇りに、今後も微力ながら貢献させていただきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻賜りますようよろしくお願い申し上げます。

副院長 けいら なつや 計良 夏哉



このたび副院長を拝命いたしました循環器内科の計良夏哉です。公立南丹病院には平成19年に赴任し、本年4月からは10年目になりました。前任の府立与謝の海病院（現京都府立医科大学附属北部医療センター）と合わせて北中部の公的基幹病院に16年間勤務してまいりました。このような地域の重要な病院で勤務し続けられる機会を得たことは幸せであり、誇りでもあります。京都府の公的基幹病院は、高度医療から慢性期までのさまざまな地域のニーズに応えるべく、健全に運営しながら、国や府の推し進める政策医療を実践していく責務も請け負っています。

私も本業の循環器診療以外にも、救急医療やDMAT隊員として災害医療にも携ることになり、京都府から二市一町の災害医療コーディネーターの委嘱を受けています。2011年の東日本大震災や2013年の福知山花火大会露店爆発事故などの実働は特別で、普段は訓練をはじめ地元で活動することが多く、土地勘も含めて地域への理解がいつそう深まりました。

かつて当医療圏では十分な医療が受けられなかった時代があつて、多くの患者さんが通勤・通学先でもある京都市域へ通院を余儀なくされていましたが、今日では大概の医療が当地でできるようになってきています。

交通路が発達してきたとは言え、京都府の面積の1/4という広大な地域であり、当院までも30分以上かけてお越しになっている患者さんが多くおられ、地域の医療システムでの完結が望まれます。患者さんの多くは人生の先輩であり、アドバイスいただきながら、皆様方に支持していただける真の最終拠点病院になるために、職員と協働して努力と創意工夫を続けたいと思います。何卒よろしくお願いいたします。

## 赴任医師のご挨拶

### 循環器内科

医師 <sup>き かい まさかず</sup> 鬼界 雅一 (平成20年卒)

京都府立医科大学大学院を修了し、このたび循環器内科へ赴任させていただきます。心臓のほか全身血管の動脈硬化に関して研鑽を積んでまいりました。最善を尽くす所存ですので何卒よろしくお願ひ致します。



医師 <sup>ほり ゆうすけ</sup> 堀 友亮 (平成26年卒)

これまで当院の研修医でしたが、本年度より循環器内科医として勤務させていただきます。これからは南丹病院循環器内科の一員として貢献していきたい所存です。日々精進して参りますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



医師 <sup>よしおか けんいち</sup> 吉岡 賢一 (平成26年卒)

本年度から循環器内科に勤務いたします。亀岡出身ですが、岡山、静岡、千葉、茨城、大阪など転々とし、久しぶりに帰ってきました。地域の皆様のお役に立てるよう精いっぱい頑張ります。



### 肝臓内科

部長 <sup>みつよし ひろのり</sup> 光吉 博則 (平成4年卒)

この度、京都府立医科大学消化器内科から公立南丹病院に赴任することになりました。肝臓の病気で心配なことはどんなことでも結構ですので、お気軽に外来でお尋ねください。「根気強さ」をモットーに南丹地域住民の皆様にご貢献できるように頑張ります。



### 腎臓内科

医師 <sup>せ の まさふみ</sup> 瀬野 真文 (平成25年卒)

本年度から公立南丹病院腎臓内科に勤務します瀬野と申します。昨年度までは京都府立医科大学で働いておりました。まだまだ至らぬところも多くお世話になることが多々あるかと存じますが、地域の皆様のお役に立てるよう誠心誠意頑張っていこうと思ひます。どうぞよろしくお願ひ致します。



### 呼吸器内科

医長 <sup>だて こうじ</sup> 伊達 紘二 (平成17年卒)

本年度より呼吸器内科に勤務します。これまで呼吸器専門医の不足していた地域ですので、何かしらお役にたてるかと思ひます。地域医療に貢献できるよう頑張りたいと思ひますので、宜しくお願ひいたします。



医師 <sup>もりもと けんじ</sup> 森本 健司 (平成24年卒)

本年度より呼吸器内科として赴任する森本健司と申します。南丹病院の呼吸器診療に貢献できるよう精進して参ります。至らぬところも多くあり、お世話になることもあるかと思ひますが、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



### 脳神経内科

部長 <sup>やまぐち たつゆき</sup> 山口 達之 (平成8年卒)

2年ぶりにまた南丹病院にお世話になることになりました山口です。2年間とはいえ脳神経領域については、脳外科常勤医不在、回復期リハビリ開設など変化が生じています。これらの変化に順応しながら地域の皆様のお役に立ちたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。



医師 <sup>ぬま そういちろう</sup> 沼 宗一郎 (平成23年卒)

本年度より公立南丹病院に赴任いたしました沼 宗一郎と申します。出身大学は京都府立医科大学です。神経内科医としては未熟ですが南丹医療圏を少しでも支えられるように精進していく所存です。至らぬ点が多数あるかと思ひますがよろしくお願ひいたします。



## 外科

かまだ ようすけ  
医員 鎌田 陽介 (平成19年卒)

はじめまして。4月より外科医として赴任させていただきます鎌田陽介と申します。昨年度まで京都府立医科大学に所属しておりました。これからは南丹病院の外科の一員として皆様のお役に立てるよう精一杯頑張ります。まだまだ未熟ではありますが、宜しくお願ひ致します。



## 小児外科

いぐち まさふみ  
医員 井口 雅史 (平成25年卒)

本年度より公立南丹病院に勤めさせていただきます井口雅史と申します。患者さんの立場に立った医療を心がけ、微力ながら地域の外科・小児外科診療に貢献できるよう精進して参ります。至らぬ点あるかとは存じますが、宜しくお願ひ致します。



## 整形外科

たなか かずや  
医員 田中 一哉 (平成25年卒)

4月より整形外科医として勤務させていただきます田中と申します。地域のみなさんのお役にたてるよう、微力ではありますが日々精進し努力していく所存です。今後とも、どうぞよろしくお願ひいたします。



## 泌尿器科

なかにし ひろゆき  
部長 中西 弘之 (平成6年卒)

4月から南丹病院泌尿器科に部長として赴任させていただきました。出身は京都府北部なのですが、幸運にも平成18年から2年間のアメリカ留学、平成20年からの5年半は東京にて泌尿器がん治療に従事する機会を得ました。日本の医療の最大の特徴はその均てん性です。常に日本標準・世界標準を意識して地方だからという言い訳はなしで、高いレベルの医療を提供できるように頑張りたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。



よこた ともひろ  
医長 横田 智弘 (平成16年卒)

4月より泌尿器科医員として就任しました横田智弘です。3年ぶりの南丹病院への復帰となります。3年前と比べ設備も増え、変化している所も多いようですが、以前いた時の記憶を思い出しながら少しでも早く馴染めるよう頑張っていきますので宜しくお願ひします。



## 産婦人科

ほそかわ まや  
医員 細川 麻耶 (平成24年卒)

今年度より公立南丹病院に勤めさせていただきます。9号線は私の祖父母の家に向かう道で、よく病院の前も通っていらしたので非常に親近感を感じています。不慣れな点も多くご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、宜しくお願ひいたします。



## 小児科

まつむら  
医員 松村 うつき (平成26年卒)

この度4月から小児科勤務になりました松村うつきと申します。小児医療に少しでも貢献できるよう、お子さまが安心して暮らせる南丹医療圏を目指すためにも、日々ひとりひとりに対して誠実に診療にあたりたいと思います。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



## 眼科

ただ かおり  
医員 多田 香織 (平成19年卒)

4月よりお世話になります多田香織です。兵庫医科大学卒、京都第二赤十字病院でスーパーローテートし京都府立医科大学眼科学教室に入局しました。済生会滋賀県病院2年、京都第二赤十字病院に戻って4年間お世話になり今日に至ります。笑顔とフットワークの軽さを売りに出来ることを精一杯頑張りますのでどうぞ宜しくお願ひいたします。



## 麻酔科

あらかき りゅうへい  
医員 荒木 竜平 (平成23年卒)

4月より麻酔科で勤務いたします荒木竜平と申します。本年3月まで京都市立病院に3年間勤務しておりました。南丹医療圏の地域医療に貢献できますよう日々精進いたしますので、どうぞ宜しくお願ひいたします。



## 部門紹介

### 回復期リハビリテーション病棟

看護師長 やすい まりこ  
安井 麻里子

平成27年12月より、3階東病棟は回復期リハビリテーション病棟になりました。回復期リハビリテーション病棟とは、社会復帰を目的としたリハビリテーションを集中的に行う病棟です。対象となる疾患や、入棟していただく時期に規定はありますが、一般の急性期病棟にくらべ多くの時間をリハビリに費やすことができるようになりました。

病棟の構造はこれまでと大きく変わっておりません。しかし、中をのぞいてみると動きやすい普段着に着替えた患者さんがリハビリに取り組んでおられます。リハビリの時間以外にも、ベッドから離れて集まってお食事をしたり、リズム体操や手先の運動のために手芸なども行っています。歯磨きや排泄、入浴や着替えなど、生活のひとつひとつがリハビリになると考え、患者さん自身でできることが増えるよう支援させていただいています。

しかしけがや病気がよくなっても、いざ退院となると不安が大きいという声をよくお聞きます。病院内では歩けても、自宅には階段や段差が多くあり、また独り暮らしの方もたくさんいらっしゃいます。そのため、私たちはご自宅の構造や一日の生活、職業や趣味などいろいろなお話を伺い、退院に向けてのリハビリに活かしていきたいと考えています。ご家族にも来院していただき、現状の回復具合をみていただきながらリハビリの目標や退院時期について話し合う機会をつくっております。

医師、看護スタッフをはじめ、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が、回復のためのからだづくりをお手伝いし、お薬について、お食事について、そして介護保険のサービス利用についてなど、それぞれ専門スタッフがサポートさせていただいております。

新しくはじまったばかりの病棟ですが、少しでも安心して退院していただくことができるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



## 特別講演を終えて

副教務主任 またの 俣野 めぐみ



今年も、特別講演を開催する季節となり、今回は実際に「病い」を体験されてきた当事者の方からお話を伺いました。学生達は真剣に耳を傾け、質疑応答の時間も充実したものとなりました。特に3年生は、これまで学び得てきた「知」の積み重ねとして聴講できたようで、質問や見解にそれぞれの看護観も伝わってきました。その姿はとても頼もしく、この数年間で成長してきた学生そのものであったと思います。



## 実習認定式を終えて

13期生 かわさき 川崎 ちはる



平成28年1月13日、私たち13期生は来賓の方々や出身校・近隣の高校の先生方、保護者などに見守られ実習認定式を無事に終えることができました。

この日を迎えたことで、入学してから新しい環境で必死に取り組んできた勉学や技術練習に一区切りがついたように思えます。私は、入学してからたくさんの良い出会いに恵まれました。時に苦しい時もありますが、互いに協力しながら楽しく学生生活を送っています。その中で、看護学の勉強をとおして、命に関わるという責任とその大変さも学びました。

学んだうえで、認定生の誓いの言葉で私は「誰からも信頼される看護師になるために、勉学や実習での経験を有意義なものにし知識や技術を着実に身に付けていく」と誓いました。これまで、本当に自分に看護師ができるのかという不安を感じていました。しかし、実習認定式を終えて「できるのか」ではなく、「できるようになる」という思いで頑張っていかなければならないと思直しました。「信頼される看護師になる」この言葉が嘘にならないよう日々努力していきます。

この実習認定式は一つのゴールでもあり、新たなスタートでもあります。初心を忘れることなく、これからも13期生らしく一歩ずつ確実に成長を遂げていきたいと考えています。これからもご指導よろしく申し上げます。



## 39年を振り返って

前・診療放射線技師長 かわかつ たかなお 川勝 考直

昭和52年4月に就職して早39年が経ち、3月末をもって定年退職いたしました。これまで大過なく勤め上げる事が出来たのも、ひとえに皆様方のお力添えによるものと深く感謝しています。

私が就職した当時の放射線科は駐車場となり跡形もありませんが、アナログの一般撮影や透視装置が設置され、技師長以下5名で運営されていました。4年後の秋にデジタル化の走りとなる、初期の全身用シングルCTが導入されましたが、1スライスの撮影に数秒かかり、ホールボディの撮影にはスライス毎に息止めが必要であり、今では考えられないほど時間を要したことも懐かしく想えます。

平成元年に現在の放射線科に移転して医療機器の整備が行われ、血管撮影装置とガンマカメラ装置が、平成6年には、0.5T MRI装置も新設されましたが磁場が弱く、平成13年に1.5T MRIに更新され今に至ります。時は流れ、平成19年に4代目となる64列MDCTへの更新に併せて、大容量の画像データを保管するためにサーバーが設置され、平成21年にフィルムレス化が実現しました。

昨年3月、心臓カテーテル検査や治療の増加に伴い、最新の循環器血管撮影システムに更新され、計画の発表から2年を経て、10月には南丹医療圏で初となるリニアックが稼働し、当院でがん治療を完結することが可能となり、検査や治療を担当する診療放射線技師も16名に増え、隔世の感を禁じ得ません。節目となる年度に放射線治療の立ち上げに参画することができ、順調に稼働している状況に喜びもひとしおです。

平成28年度には更なる充実をはかるため、高精度3T MRI装置が導入される予定であり、地域医療を担う南丹病院が住民の皆様の生命と健康を守り続け、より信頼される病院として、益々の発展を遂げられることを願っています。長い間お世話になり本当にありがとうございました。



## 看護研究会

看護師長 まえだ みえこ 前田 美恵子



平成28年2月21日に第20回公立南丹病院看護部主催の看護研究発表会が開催されました。地域住民の皆さまには、「南丹病院の看護師さんは、外来や病棟で仕事をしているだけではないの?」と思われるかもしれませんが、毎年部署ごとに看護研究に取り組んでいるのです。看護の現場から実際に働いているからこそ出てくる疑問や興味をテーマにし、「よりよい看護の提供」を念頭において1年間取り組み、その成果を毎年発表して、今回20回目を迎えました。また、この研究発表は様々な学会でも発表しております。

今年は、患者さんはもちろん家族の方々への支援、災害訓練、看護師教育、働きやすい職場づくりなどについて考えました。この看護研究を完成させるために、当院では3年目の看護師を中心にベテラン看護師まで、個々の役割を担いながら、互いに協力し、一つの課題に向け努力してきました。それにより、チームワークが強化され、また多くの文献を検索し読み込むことで今以上の知識を得て、それぞれのスキルアップにも繋がりました。これらは、これからの看護に活かしていけるものです。

最後になりましたが、毎年多くの患者さんにもアンケートなどのご協力を頂いており、大変感謝しております。これらの結果は分析し、今後の課題を明らかにし、南丹病院の理念にあるように、地域住民の皆さまに愛され、信頼される看護に繋げていきたいと思っております。

## 平成27年度 第3回緩和ケア講演会

緩和ケアチーム ひらい くみこ 平井 久美子

2月27日、ガレリア亀岡にて緩和ケア講演会を開催いたしました。講師として、流通ジャーナリストの故・金子哲雄氏の妻であり、ライフ・ターミナル・ネットワーク代表として活躍されている金子稚子先生をお迎えしました。先生には、夫と共にその終末期から臨終、その後を過ごされる中から学び得られたことを『“死ぬこと”から考える生き方』と題してお話いただきました。

私たちは死ぬことを前提に生きている。「死」は誰にも訪れるものであり、いつかは誰にもわからない。それまでをどのように過ごすか、どのように迎えるか、家族や医療関係者にもしっかりと伝えることで、残される方の力となり、新たな関係が生まれる。死ぬことと生きることは同じであり、「死は終わりではなく、人生のひとつの通過点である」というお話でした。

講演後のアンケートでは、「死について考える機会になった」、「生き方を考えようと思う」、「介護・看護の現場で活かせる」など、それぞれの立場から多くの意見をいただきました。金子先生の死生観を通して、自らの死生観をもつことの必要性を学ぶことができました。公立南丹病院では、これからもこのような講演会を企画・開催し、みなさんと一緒に考え、学ぶ場をつくっていきたくと考えています。



## 第1回 iMEPカップ (ナーシングオリエンテーリング)に参加して

看護師は様々な領域で患者さんの援助を行います。それぞれの知識や経験を活かしてチームで継続した看護を行ってこそ、質の高い看護の提供が可能となります。現在は患者さんの状況を想定しやすいように人間の形をした模擬装置など(シミュレーター)を使用した教育がすすめられており、最新の医療機器を実際に使用して学べる医療研修施設が全国に開設されています。

関西では滋賀県にiMEPが開設され1年となり、その記念として多岐にわたる看護分野の課題を看護チームで攻略していく競技会(ナーシングオリエンテーリング)が、平成27年12月23日に開催されました。

当院からも救急室から5名の看護師が参加し、病棟急変、外傷、バイタルサイン、清潔操作、在宅、認知症、透析、母性、看護技術の9つの課題に挑戦しました。日頃は遭遇しない状況設定も多くなりましたが、5名で協力して取り組み、準優勝という結果を得ることができました。

今後はシミュレーターを使用した教育や競技会を院内でも企画し、総合的な看護能力やチーム力の向上を目指し、質の高い看護を地域の皆様に提供できるよう活動していきたいと思えます。

\*iMEP: institute for MEdical Practice / NIPROの医療職者向けの専門的研修施設



## 地域における「PUSHプロジェクト」の普及を目指して

全国では1年間に6万人の人が心臓突然死で亡くなっていますが、以前ご案内したPUSHコースでは、救命率の向上に必要な心臓マッサージやAEDの使用方法が学べ、さらに命の大切さを子供たちに伝えることができます。須知高等学校・園部高等学校・農芸高等学校・南桑中学校からコース開催のご依頼をいただき、院内を含め受講者数は300名を超えました。以下は受講された生徒さんからのメッセージです。

◆「人の命を救う難しさも大切さもよくわかりました。もしも自分がそんな場面に出会ったら、自分からすすんで人助けをしたいです。」(須知高等学校1年生)

◆「今日の講習会で、人の命を救うために大切なことを学ぶことができました。この体験を大切に、これからにつなげていきたいと思えます。亡くなる方が少しでも少なくなればいいと思えました。」(須知高等学校1年生)

◆「自分なんか人の命を助けられないと思っていたけど、今日話を聞いていたら私でも勇気を出せば大きな命を救えるんだなって思った。」(南桑中学校2年生)

今後も地域でのPUSHプロジェクトの普及に是非ご協力ください



## 近隣の連携医療機関の先生方

### 「井上耳鼻いんこう科をヨロシク」

井上耳鼻咽喉科医院  
いのうえ いさお  
井上 功

この度、連携医療機関として広報誌の原稿をご依頼していただいたことを身に余る光栄と心から感謝させていただきます。

病診の連携は病院への紹介、病院からの逆紹介、開放病棟、病院の高度医療機器、検査機器の開放、診療所の開業医が病院で診療にあたる診療支援という形態で取り組まれています。当院は連携機関との触れ込みで紹介文書をご提供していただいておりますが、実際は紹介・逆紹介の書面のやりとりのみの連携です。張三李四のごとき平凡な耳鼻咽喉科ですのでここに紹介するのは躊躇われます。

当院は平成9年に亀岡市篠町に開院してから、貴院とは尠からず関わりを持たせていただきました。平成21年に看護部の方から子供の\*擤鼻の指導に関する資料を頂きました。それは今でも私の日常診療に役立っており、いつかは私からも情報を提供させていただき、恩返しをしたいものだと考えております。できれば倍返しにしたいものです。

ところで昨年10月にリニアックが設置されたことのご案内を頂きました。耳鼻咽喉科医が遭遇する頭頸部癌はがん全体の5%にすぎませんが、扁平上皮癌が多く、比較的放射線療法が有効であり、発生するのが発声、摂食、呼吸に関与し、顔という外見上、最も大切な場所なので、QOL温存の意味から放射線療法の役割は重要とされています。今後、当方からお願いせねばならない症例は増えると考えられますので何卒よろしくお願い致します。さらに高度になっていく公立南丹病院と肝胆相照らす連携医療機関と称して恥じないように努力せねばならぬと緊張してなりません。

\*擤鼻：鼻を擤むこと



### 「南丹病院小児科当直の思い出」

吉田小児科内科医院  
よしだ あきら  
吉田 昭

平成3年から、南丹市園部町河原町交差点の近くで、小児科内科医院を開業し、小児疾患、乳幼児健診、予防接種を中心に診療しております。

私は今から30数年前に南丹病院の小児科当直を4年間にわたり、やったことがあります。

大学から旧山陰線の列車にゆられて1時間半かけ八木駅に到着、毎月1回、土曜日の夕方から月曜日の朝までの2泊3日の当直でした。

その頃の小児科の常勤医は小谷部長と若い医師の2人だけで、休日・夜間の南丹地域の小児救急医療を行うには人手不足で、小児の急患はしばしば京都市内の病院を受診されていました。

私が当直していた土日の昼間や準夜帯にも多数の患者さんが来られましたが、幸いにも、深夜帯に起こされることはほとんどありませんでしたので、何とか長時間の当直を乗り切ることが出来ました。

当直の楽しみと言えば、当直用のおいしい食事と、食堂の横にあった大きなお風呂にゆっくりひたり、時には泳いだりしてリラックスすることでした。今、思い返すと多くの患者さんを診療することができ、貴重な経験をさせてもらった南丹病院での当直でした。

開業して25年経った今、南丹病院の御努力で休日・夜間の診療も充実し、病気の子供や親が安心できる小児救急医療体制となっています。私も、南丹病院をバックに安心して外来診療ができており、感謝しております。

今では、小児科のみならず全科にわたりお世話になっています。今後もご指導、ご支援賜りますようお願いいたします。



# 南丹病院設立物語

前・医事課長 馬淵 勝英 まぶち かつひで

私が入職時、当時の事務長さんから事務の先人の命がけの苦労話を伺ったことがありました。今回、この地域の古い郷土誌を入手することができ、昨年12月の公立南丹病院健康フォーラムで話す機会を得ましたのでその概要を報告させていただきます。

話は昭和初期になります。当時のこの地域の農村は大半が小作農でした。一般の農民は一度病気にかかるると簡単に医師に診てもらえず、費用に困って泣く泣く見殺しにする悲惨な出来事が決して珍しくなかったといえます。人道主義の立場から総合病院の設立が望まれる中、岡島医師(八木町観音寺)

と秋田弥之助氏(産業組合理事長)と福島 勇氏(初代の南丹病院事務長)の3名が奮起されるわけです。口丹波地方各村々に広く病院設立を呼びかけ、八木を中心とする口丹波11カ町村、12の産業組合の賛同を得て事業計画を発足、昭和10年4月に京都府に大きな期待を込めて設立申請書を提出されます。

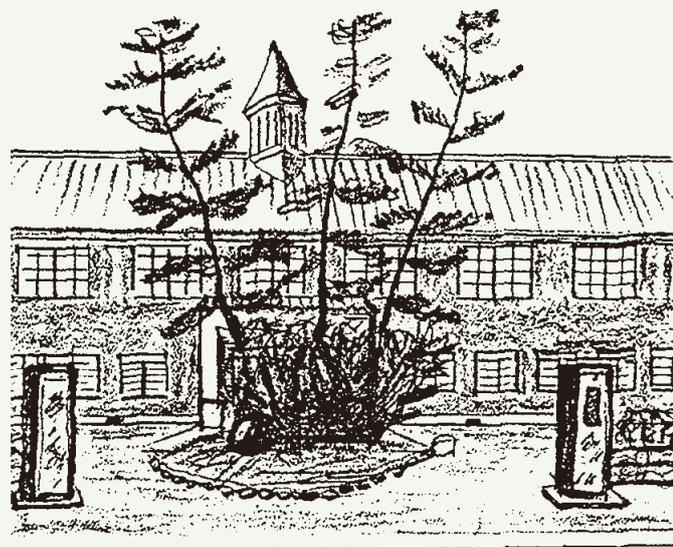


京都府に陳情を繰り返すこと実に45回、それでも病院設立の許可は得られませんでした。万策尽きたりと諦めムードの中、秋田さんと福島さんは最後の手段として東上し、当時の内務大臣に直接面会して陳情するしかない、直訴を断行されます。2・26事件の勃発する半年前です。当時の世情は不況により混沌としており、一方では軍国主義化と大陸進出の動き等騒然たる首都に降り立ち、警備の厳しい中、岡田内閣の後藤文夫内務大臣の私邸に、憲兵に捕えられることを覚悟して、(二人とも捕まらないよう)福島さんが単独で赴き、面会されています。そして懸命な陳情に熱意が通じることとなります。

り、昭和10年8月24日、京都府から設立許可があります。

京都府立医科大学から竹下一二三医学博士を初代の院長に迎え入れ、医師8名・職員数23名・入院患者収容数30名・内科・外科・小児科など9科から南丹病院は出発します。

以上創設の苦労話の後も、今日までの病院発展の歴史には関係先輩の血涙の努力が続けられます。幾多の苦難や反対を克服し、最後まで信念を貫かれた先覚者のお二人の勇気と熱意、実行力に謝意を表し、その功績を讃えたいと思います。



設立当時の本館(昭和11年)

## 第4回 リハビリテーション事例検討会を終えて 管理栄養士 森山 瞬



平成28年2月22日に、リハビリテーションセンター主催の検討会を開催しました。南丹地域のケアマネージャー・看護・介護・リハ専門職等の介護スタッフを中心に、24名の方にご参加いただき、「高齢者の栄養管理—低栄養の早期発見とそのケアについて—」をテーマに、管理栄養士主任の中澤より講演させていただきました。

高齢者は原疾患に加えて摂食・嚥下障害、心理的問題、不適切な栄養管理によって容易に低栄養状態に陥ります。しかも、その進行は緩慢で変化に気づきにくいいため、見落とされやすいといわれています。

一旦低栄養に陥ると「生活自立度の低下」「介護度の上昇」などQOLの低下の要因となるため、早期に低栄養状態を発見することが重要となります。

今後、南丹地域が迎える超高齢化社会に対応すべく、各施設間のより密接な情報交換や連携が必要となってきます。今回は業者の方にもご協力いただき、嚥下食に用いる凝固剤についてデモンストレーションを行いました。現在、栄養科では嚥下食に凝固剤を使用し形取りをしており、患者さんからは好評をいただいております。「嚥下し飲み込んだりしにくい」「食事の作り方が分からない」など調理のお悩みはお気軽にご相談ください。

## 平成28年度 オープンキャンパス・学校見学会のお知らせ

公立南丹看護専門学校では、看護師を目指す人々に看護学校について、知っていただくことを目的とし、オープンキャンパス・学校見学会を行っております。申し込み方法・申し込み期間については5月上旬頃までには、ホームページ等でお知らせします。

### ● オープンキャンパス

日時：平成28年8月5日(金) 13:00~16:00

内容：学校紹介・学校内見学・体験学習・個別相談など

### ● 学校見学会

日時：平成28年8月27日(土) 10:00~11:00

平成28年10月29日(土) 10:00~11:00

内容：学校紹介・学校内見学・個別相談など



〒629-0196 京都府南丹市八木町南広瀬上野3番地1  
公立南丹看護専門学校 TEL 0771-42-5364 FAX 0771-42-5422

## 看護師・助産師募集(正職員・臨時職員)

正職員・臨時職員共に院内保育所の利用可。  
寮(正職員のみ)利用可(月額10,480円)

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野25番地  
公立南丹病院 総務課人事係 TEL 0771-42-2510(代) まで  
詳しくは公立南丹病院ホームページをご覧ください。

<http://www.nantanhosp.or.jp>



### 編集後記

また新しい春がやってきました。最近、1年があっという間に過ぎていく気がします。だからこそ、新しい出会い、長いおつきあい、一瞬の出会いまで大切にしていきたいと日々思います。この広報誌も地域の皆様と病院との素敵な出会いの1ページになるよう、これからも頑張ってお参りますので、引き続きご愛読をよろしくお願いいたします。

広報委員 M.M.

